

【米国】

英国における国際旅行制限の緩和措置について

高木 大介 ワシントン国際問題研究所研究員

1. はじめに

現在、世界中で新型コロナウイルスワクチンの普及が進められている。経済の再開と正常化、とりわけ航空業界においては旅客輸送の回復が目指され、ワクチンの普及とともに様々な対策が講じられている。国内の旅客航空輸送は回復の兆しが見えつつある一方、国際旅客航空輸送は依然として停滞しており、今年3月の国際航空需要は2019年の同時期と比べて12%程度に留まっている。そのような中、英国が段階的な国際移動の再開を狙って、渡航国のリスクに応じて往來の際に旅客が遵守すべき要件を三段階に区別する「信号システム (Traffic Light System)」の導入とそれに付随する国境管理対策を発表した。本稿では、それらを概説するとともに、この動きを受けて英国の航空関係事業者がどのような反応を示したかについて紹介する。

2. 信号システム (Traffic Light System) について

英国のグラント・シャップス運輸大臣は2021年5月7日、5月17日から国際旅行の一部再開を発表した¹。これに伴い、国際移動にかかる法的制限は5月17日に解除され、英国からのレジャー旅行が合法的に可能となった。一方で、引き続き厳格な国境管理を維持するため、英国政府内の省庁横断的な組織であるグローバルトラベルタスクフォースによって設けられた「Traffic Light System (信号システム)」に基づき、諸外国を新型コロナウイルスに関する渡航リスクに応じて「グリーン」、「イエロー」、「レッド」の三色に区別し、それらの諸外国から英国に戻る旅行者には様々なレベルの制限が適用されることとなった²。

「グリーンリスト」に追加された国は、英国に戻ったときに自主隔離することなく安全に訪問できる場所とされる。「グリーン」国に渡った旅行者は英国への帰国の72時間前以降に出発前検査を行い、英国に到着した2日目までに再度PCR検査を行う必要がある。5月17日現在でグリーンリストは次の12の国と地域となっている。

・「グリーンリスト」に属する国又は地域

オーストラリア、ブルネイ、フォークランド諸島、フェロー諸島、ジブラルタル、アイスランド、イスラエル及びエルサレム、ニュージーランド、ポルトガル (アゾレス諸島及びマデイラ諸島を含む)、シンガポール、南ジョージア・南サンドイッチ諸島、セントヘレナ

「グリーンリスト」国は、自主隔離措置を含め、英国の旅行者に引き続き制限を課しており、旅客はそれらの国への旅行を予約する前にすべての渡航要件と外務・英連邦・開発省 (FCDO) の旅行勧告を確認することが推奨されている。

「イエローリスト」と「レッドリスト」に属する国又は地域には基本的に余暇のための旅行は推奨されておらず、イエローリストの国から帰国する旅行者は出発前検査に加え、帰国後は自宅にて10日間の自主隔離が義務付けられるとともに、帰国後2日目と8日目にPCR検査を受けることが義務付けられている。レッドリストの国又は地域から帰国する旅行者は、出発前検査に加え、英国政府が管理する宿泊施設での10日間の自主隔離に加え、イエローリストと同じく帰国後2日目と8日目にPCR検査を受ける必要がある。「イエローリスト」は数が非常に多いため、英国政府のウェブサイトを確認されたい³。「レッドリスト」に属する国又は地域は以下の

¹ <https://www.gov.uk/government/speeches/transport-secretarys-statement-on-coronavirus-friday-7-may-2021>

² <https://www.gov.uk/government/news/government-confirms-traffic-light-list-ahead-of-cautious-return-to-international-travel>

international-travel

³ <https://www.gov.uk/guidance/red-amber-and-green-list-rules-for-entering-england#amber-list>

とおりとなっている。

・「レッドリスト」に属する国又は地域

アンゴラ、アルゼンチン、バングラデシュ、ボリビア、ボツワナ、ブラジル、ブルンジ、カーボベルデ、チリ、コロンビア、コンゴ民主共和国、エクアドル、エスワティニ（旧スワジランド）、エチオピア、フランス領ギアナ、ガイアナ、インド、ケニア、レソト、マラウイ、モルディブ、モザンビーク、ナミビア、ネパール、オマーン、パキスタン、パナマ、パラグアイ、ペルー、フィリピン、カタール、ルワンダ、セーシェル、ソマリア、南アフリカ、スリナム、タンザニア、トルコ、アラブ首長国連邦、ウルグアイ、ベネズエラ、ザンビア、ジンバブエ

このリストは3週間ごとに見直され、ジョイント・バイオセキュリティ・センター（英国の中央又は地方政府の新型コロナウイルス対応にかかる意思決定に際して客観的な分析や評価などを提供する機関）による最新データの評価を含む公衆衛生に関する勧告によって通知される。また、ある国がグリーンからイエロー又はイエローからレッドへと危険度の色が変更されそうな場合にその指標とするため、国名にフラグを付ける形の「ウォッチリスト」を合わせて公開している（ただし、状況が急激に変化した場合はウォッチリストを経ることなく色が変更される場合がある）。

英国への入国に際してのワクチン接種証明の要否については今後英国政府が決定することとなるが、必要に応じて、必要回数のワクチンを接種している英国の人々は、5月17日から、イギリスの国営医療サービス事業である国民保健サービス（NHS）の専用アプリを介してワクチンの接種状況を示すことが可能となっている。また当該アプリにアクセスできない人は、119に電話してワクチン接種のステータスを証明するNHSの書類を請求することができる。

3. 英国の国境管理対策について

5月7日の会見の席でシャップス運輸大臣は、次のように述べている：「今日は、国際旅行への慎重な復帰の第一歩であ

り、公衆衛生を保護し、今年獲得しようと努力してきた利益を捨てないための対策としてこのシステムを設計した。これは事をなすための新たな方法であり、人々はこの夏の旅行が違ったものになると思わねばならない。つまり、ウイルスの変異株が英国に侵入し、我々の素晴らしいワクチン普及を危険に晒さないための厳しい対策の一環として、国境でのチェックを入念に行うこととなる」⁴。

つまり、旅行が再開するとき、特に英国に戻るとき、国境で100%の公衆衛生管理を維持しながら国際旅行を再開すれば、旅行者が国境を越えるまでの待ち時間が長くなる可能性があるというわけである。英国においては、どの目的地から戻る旅行者も旅客ロケーターフォーム（PLF）という書類を作成する必要があり、出発前検査の結果が陰性だった証明を提示する必要がある。英国政府は、待ち時間を最小限に抑えるためにプロセスを可能な限り効率化するため、国境部隊のリソースを増やすことを約束している。英国政府は、国境部隊が到着旅客が現行の健康対策を遵守していることを確認する際に、旅行者が入国前に必要なすべての要件を完了することで遅延を減らすことができるとしており、航空会社に対しては、有効な出発前検査証明書を持っていない旅客1人につき2,000ポンド、PLFを完了していない旅客1人につき2,000ポンドの罰金を科す必要がある全てのチェック又はリスクを実行するよう要請している。また前述の会見において英国政府は、健康対策チェックを国境システムに統合し、2021年夏に主要港のeゲートでチェックを行えるようにする計画を立てていることも明らかにしている。

4. 航空関係事業者の反応

この信号システムの導入を受けて、英国内の航空関係事業者らが様々な反応を示している。ロンドン・ヒースロー空港⁵、マンチェスター空港グループ⁶、エディンバラ空港⁷、AGS空港（英国のアバディーン、グラスゴー、サウサンプトンの空港の運営事業者）⁸らが英国政府に対しグリーンリスト国の増加を呼びかけた他、エアラインズUK（英国の航空会社の業界団体）は、「リストに載った国はごくわずか、航空旅行の再開とは名ばかり。機会の逸失だ」と辛辣な表現で批判し⁹、

⁴ 注1に同じ。

⁵ <https://mediacentre.heathrow.com/pressrelease/details/81/Corporate-operational-24/13083>

⁶ <https://mediacentre.magairports.com/mag-responds-to-the-governments-announcement-on-international-travel/>

⁷ <https://corporate.edinburghairport.com/media->

centre/news-releases/response-to-first-minister-statement-on-travel

⁸ <https://www.glasgowairport.com/media-centre/a-joint-statement-from-airlines-uk-ags-airports-ltd-and-edinburgh-airport-following-today-s-announcement-from-the-first-minister/>

⁹ <https://airlinesuk.org/airlines-uk-responds-to-air-travel->

ブリストル空港も、「現行のグリーンリストには失望した」としながらグリーンリストの拡大を訴えた¹⁰。また英国空港運営事業者協会も、グリーンリスト国に到着した旅客に対する安価で迅速な検査の導入とグリーンリストの継続的な見直しを訴えている¹¹。さらに航空会社もこの動きに反応し、ライアンエアー¹²、easyJet¹³、Jet2.com¹⁴などの英国に乗り入れる航空会社が EU 域内のグリーンリスト国行きのフライトを増便する対応をとっている他、ブリティッシュエアウェイズは、グリーンリストにカリブ諸国が追加されることを望むと CEO がメディアのインタビューに答えている¹⁵。

5. おわりに

英国政府の今回の施策に対しては、グリーンリストにより多くの国又は地域、しかも旅行者が渡航を切望するところを加えるべきだとして、現段階では概ね否定的な評価ばかりのように見受けられる。国際移動の再開と国際旅客航空輸送の回復は航空業界や観光業界の喫緊の課題であり、たとえ一部であっても旅行者の国際移動を認めた英国の施策は評価し得るものと思料するが、今後はどの国からグリーンリストに格上げしていくかの見極めが英国政府には求められるだろう。外部からの圧力も増すことが予想され、すでに米国と英国の航空会社 CEO らは、米英両国の運輸省に対し、米英間の国際旅行の再開を要請している¹⁶。新型コロナウイルスワクチンの今後の展開や変異種への懸念と相まって今後どのように状況が推移していくのか、引き続き注目していきたい。

restart-announcement-and-green-list/

¹⁰ <https://www.bristolairport.co.uk/about-us/news-and-media/news-and-media-centre/2021/5/dave-lees-ceo-bristol-airport-response-to-government-announcement-on-green-list-of-countries>

¹¹ <https://www.aoa.org.uk/aoa-response-to-first-ministers-announcement-on-welsh-travel/>

¹² <https://corporate.ryanair.com/news/green-for-go/?market=en>

¹³ <https://mediacentre.easyjet.com/story/14983/easyjet-launches-more-flights-and-holidays-to-give-customers-more-options-to-get-away-this-summer-as-green-list-bookings-take-off>

launches-more-flights-and-holidays-to-give-customers-more-options-to-get-away-this-summer-as-green-list-bookings-take-off

¹⁴

https://www.jet2.com/News/Summer_capacity_added_to_Portugal_in_response_to_demand/

¹⁵ <https://www.caymancompass.com/2021/05/05/bahopeful-of-increased-caribbean-travel-after-17-may/>

¹⁶ <https://www.reuters.com/world/us/major-airline-ceos-call-summit-speed-uk-us-travel-2021-05-11/>